

令和4年度 日本薬剤師会 くすり教育研修会に参加して

千葉県学校薬剤師会
副会長 大野定行

令和4年度くすり教育研修会が、2月5日(日)にハイブリッド形式で開催されました。当日は現地、Webで約1,000名と多くの学校関係者、薬剤師が参加されました。

基調講演では、「学校で用いる医療医薬品について一てんかん重積状態を中心に」のテーマで、武田薬品工業ジャパンメディカルオフィス 古澤嘉彦氏が話されました。

学校における医療行為についての解釈から、てんかん発作に用いられる坐薬挿入を例に学校での坐薬の医療行為が認められた経緯について説明がありました。その後、エピペンの使用法やてんかん重積発作治療薬ブコラム®[®]についての薬剤情報や、患者である生徒を守るために医師、保護者、学校間の取り組み方などについて話されました。

講演1では「大麻をめぐる動きと薬物乱用防止教育」として、日本薬剤師会学校薬剤師部会部会長 富永孝治氏による講演がありました。若年者による大麻の乱用が増加しており、検挙者では20歳未満ではH25年からR3年では16.4倍と増加しており、早急な対応が求められています。また現在、大麻等の薬物対策のあり方検討会では1. 大麻から製造された医薬品の規制の見直し 2. 大麻草の部位規制からTHC(テトラヒドロカンナビノール)等有害成分に着目した規制 3. 大麻の「使用罪」の導入が検討されている点など最新の話題について話されました。最後に児童生徒を守るために正しい知識と理解を学校薬剤師として薬物乱用防止教室などで伝えていただきたいと述べられました。

講演2では「小学校におけるくすりの適正使用の

啓発」として、くすりの適正使用協議会 くすり教育・啓発委員会副委員長 西野潤一氏と日本薬剤師会学校薬剤師部会幹事 木全勝彦氏による話がありました。『くすりの適正使用協議会』とは製薬企業などからなる組織です。社会に向けた、信頼できる医薬品情報の提供や医薬品の本質を理解し、医薬品を正しく活用する能力の育成、ベネフィット・リスクコミュニケーションの最適化など医薬品の適正使用推進のための活動を中心に、小中学校への薬に関する調査や養護教諭への調査から、教育資材のノウハウ、動画などの作成と提供をおこなっています。これらは、『くすりの適正使用協議会』で無料公開していますので、活用してください。

木全氏からは、薬物乱用防止教育の法的な位置付けや愛知県内で『くすりの適正使用協議会』作成の資料を用いた実践報告がありました。

講演3では「くすりが社旗にもたらしてきたこと、もたらすこと」日本製薬工業協会産業政策委員会総合政策部会アドボカシーグループ 竹中克志氏による講演がありました。

現在の新薬開発では、新薬の国内未承認薬数が増加している現状やモダリティの多様化による治療選択肢の提供(低分子薬、抗体薬、細胞治療、遺伝子治療など)が増加していくと述べられました。

今回の研修会は、てんかん治療、大麻問題、くすり教育、新薬開発など様々な内容で、有意義な研修会でした。